

## 講師のプロフィール



### かや の しげる 萱野 茂

1926(大正15)年、北海道平取町二風谷生まれ。1952(昭和27)年よりアイヌ民具・民話の収集及び記録に力を注ぎ、1972年、収集した約2,000点の民具をもとに「二風谷アイヌ文化資料館」として結実。1994年8月、参議院議員に繰り上げ当選してアイヌ民族初の国会議員となる。1992年3月「二風谷アイヌ文化資料館」は、「平取町立二風谷アイヌ文化博物館」となり、同年3月、旧「資料館」の建物を利用し、私立の「萱野茂二風谷アイヌ資料館」を新たに開いた。2002年2月には、右資料館の収蔵品202点(博物館は919点)を含む1,121点が、国の重要有形民俗文化財の指定を受けた。2003年3月現在の収蔵・展示点数は約4,000点。2001年3月、「アイヌ民族における神送りの研究 - 沙流川流域を中心に -」の学位論文によって学術博士号を取得。現在、著述業及び「萱野茂二風谷アイヌ資料館」館長。1987年6月から平取町二風谷アイヌ語教室の講師を務めている。

### 協力者の紹介

#### かや の し ろう 萱野 志朗

「萱野茂二風谷アイヌ資料館」副館長・学芸員。  
平取町二風谷アイヌ語教室・子どもの部 講師  
平取町二風谷アイヌ語教室 事務局長  
アイヌ語ペンクラブ 事務局長

#### かい ざわ ま き 貝澤 真紀

平取町二風谷アイヌ語教室・子どもの部 指導助手  
平取アイヌ文化保存会 事務局員

#### むら やま る み こ 村山 留美子

平取アイヌ文化保存会 事務局員

### 【このテキストのアイヌ語と表記の仕方等について】

現在のところアイヌ語には共通語というものはなく、それぞれの地域でそれぞれの方言が学ばれています。そのため、このテキストでは担当講師の方言(二風谷の方言)をベースにしています。

このテキストの中には「ド」という文字がありますが、これは、これまでのテキストの「トゥ」(tu)と表記されていた音と同じです。

なお、このテキストのアイヌ語の例文は『萱野茂のアイヌ神話集成』をもとにしていますが、『萱野茂のアイヌ神話集成』の内容等につきましては、ピクチャーエンタテインメント株式会社(電話:03-5467-3562)にお問い合わせ下さい。

## アイヌ語ラジオ講座のスケジュール表

月	日	Lesson	テ - マ	ページ
1月	4日	40	早口ことば(1) ハントイキナカ	4
	11日	41	早口ことば(2) アーサアサ	6
	18日	42	早口ことば(3) オンネパシクル	8
	25日	43	早口ことば(4) コンル カタ ハーチリ	10
2月	1日	44	カムイユカラ ホタルの婿選び	12
	8日	45	カムイユカラ ホタルの婿選び	14
	15日	46	カムイユカラ ホタルの婿選び	16
	22日	47	カムイユカラ 大空に描いたコタン	18
	29日	48	カムイユカラ 大空に描いたコタン	20
3月	7日	49	カムイユカラ 大空に描いたコタン	22
	14日	50	カムイユカラ 大空に描いたコタン	24
	21日	51	カムイユカラ 大空に描いたコタン	26
	28日	52	カムイユカラ 大空に描いたコタン	28

### 【二風谷アイヌ語教室の活動について】

平取町二風谷アイヌ語教室では、「子どもの部」と「アイヌ語演習(ゼミ)」は二風谷生活館で、「成人の部」は二風谷子ども図書館(私立)で開設しています。「子どもの部のコース」は、月2回(第2・第4土曜の午前10時~)講義や野外実習・ゲームなどを取り入れて学習しています。対象者は小学1年生から中学3年生までです。「成人の部のコース」は、月2回(第2・第4日曜の午後7時~)講義を中心として会話や口承文芸を学習しています。対象者は大人(高校生以上)です。「アイヌ語演習(ゼミ)コース」は、年間に9回(4月・8月・12月を除く毎月第3または第4土曜日の午後7時~)参加者が輪番でアイヌ語文法について報告を行い、参加者同士で切磋琢磨しアイヌ語文法の理解を深めていきます。このコースの参加条件は、アイヌ語文法に関する報告が出来る人となります。

問い合わせ先：二風谷子ども図書館 TEL 01457-2-3368





# Lesson 42 早口ことば(3) オンネパシクル

## 例文

オンネパシクル onnne paskur	イーネ ine (年寄りカラスはどうしたの)	アライケ a=rayke	ワ wa (みんなで殺してしまったよ)	イーサム isam
タラ tara	タク tak (俵を取りに行っている)	アライケ a=rayke	ウシケ uske (殺したカラスはどうしたの)	イーネ ine
ネー ne	タラ tara (その俵はどうしたの)	アライケ a=rayke	ワ wa (殺したカラスのその羽を)	トシ tos ト to
サケ sake	アカヲ a=kar (酒を醸してしまったよ)	アイラフ ay-rap-kina	ネ ne (矢羽根に作って)	アカヲ a=kar ワ wa
ネー ne	サケ sake (その酒はどうしたの)	アエアッ a=e-ak	ワ wa (射飛ばして)	
アク a=ku	ワ wa (皆で飲んでしまったよ)	アン an	ル ru (しまったよ)	ウン un
アク a=ku	ルウエ ruwe (飲んだ後はどうしたの)	エピシネ e-pis-ne	レホッ rehot (海辺の方へ六十本)	
アエオソマ a=e-osoma	ワー wa (糞になってしまったよ)	エキムネ ekimne	レホッ rehot (山の方へ六十本)	
アエオソマ a=e-osoma	ウシケ uske (その糞はどうしたの)	アエアッ a=e-ak	ワ wa (射飛ばした)	
パシクル paskur	エ e (カラスが食ってしまったよ)	クス kusu	アン an (それで生えたのが)	ペ pe
ネー ne	パシクル paskur (そのカラスはどうしたの)	アイラフキナ ay-rap-kina	ネ ne (矢羽根草)	ネーク nek クサソテツだよ

『萱野茂のアイヌ神話集成10』(1998年、ビクターエンタテインメント株式会社)110ページより。  
(1971年2月7日、西島てるさんより萱野茂が録音)

## 単語

アイヌ語	日本語訳	備考
オンネ	年をとる、年寄りの、死ぬ	
パシクル	カラス(鳥)	シエ パシクル = (糞食い鳥) ハシプトガラス
イーネ	どうした、いったい、どこへ行った、 どれほど、なんと	
イーサム	ない、なくなる、いない、死ぬ、~してしまう	
カヲ	作る、こしらえる、直す、火を作る、~する (木の実等) 摘む・採る、むく	
オソマ	大便をする、排便(する)	
ライケ	殺す	
ウシケ	場所、所	
アイラフ	矢羽	鷹やカラスの羽根を使う
アッ	射る	
ピシ	浜	

## 今日のポイント

この「早口ことば」は、アイラフキナ(クサソテツ)の由来を教えてください。

MEMO

## アイヌ文化の紹介

### アイヌの民具⑳ アッサフ(櫂)

丸木舟で川を渡る時、棹が川底に届かない所に使う。材料はナラ。長さ1メートル30センチ、最大幅17センチくらい。柄の中心線が水かきの中心よりやや片側に寄っているのは、暗い夜でも水かきが自然と下にきて、すぐこぎ出せるため。



『カムイユカト昔話』(小学館 萱野茂著)279ページより。

# Lesson 43 早口ことば(4) コンル カタ ハーチリ

## 例文

コンル konru ハーチリ hacir	カ ka タ ta	ポノケウボ pon-horkew-po	氷の上に小さなオオ カミがころがった	トイトイ toy-toy ネー ne	ヌブル nupur ネッ nek	クス kusu	タッ tas	土が偉いからだろ うよ	
コンル konru ネー ne	ヌブル nupur ネッ nek	クス kusu	タッ tas	トイトイ toy-toy チクニ cikuni	ヌブル nupur ヘドール hetukpa	マヌ manu	カシ kasi	ワ wa	土が偉いの にその上 に木が生え るの
コンル konru ルレ ru-re	ヌブル nupur	マヌ manu	チュフ cup	チクニ cikuni ネー ne	ヌブル nupur ネッ nek	クス kusu	タッ tas	木が偉い からだろ うよ	
チュフ cup ネー ne	ヌブル nupur	クス kusu	タッ tas	チクニ cikuni ワー wa	ヌブル nupur	マヌ manu	アイヌ aynu	タ ta	木が偉い のにアイ ヌに伐ら れる
チュフ cup ニシクル niskur	ヌブル nupur クシ kus	マヌ manu	カシ kasi	アイヌ aynu ネー ne	ヌブル nupur ネッ nek	クス kusu	タッ tas	アイヌが 偉いから だろ うよ	
ニシクル niskur ネー ne	ヌブル nupur	クス kusu	タッ tas	アイヌ aynu オケレバ okerpa	ヌブル nupur	マヌ manu	ライ ray	ワ wa	アイヌが 偉いのに 死んでし まうの
ニシクル niskur アット apto	ヌブル nupur ハーチリ hacir	マヌ manu	オロ oro	アイヌ aynu フッサ hussa	ライ ray	コロ kor			アイヌが 死んだら フッサフ ッサと
アット apto ネー ne	ヌブル nupur ネッ nek	クス kusu	タッ tas	アカ a=kar	コロ kor				息を かけると
アット apto オスマ osma	ヌブル nupur	マヌ manu	トイ toy	ピリカ pirka	ッ p	ネ ne	ワ wa		いいも のだ
				シクヌ siknu	ッ p	ネ ne	ワ wa		生き返 るものだ

『萱野茂のアイヌ神話集成10』(1988年、ビクターエンタテインメント株式会社)106~107ページより。  
1965年9月20日、平賀さともさんより萱野茂が録音。

## 単語

アイヌ語	日本語訳	備考
ヌブル	霊力(がある)、靈感(がある)	
ルレ	溶かす	
クシ	通る	
アット	雨	

## 今日のポイント

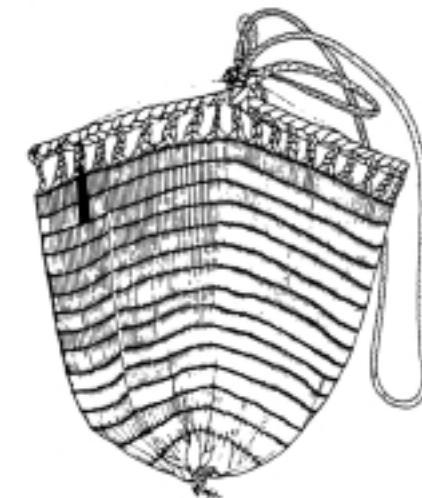
日本民話の「ねずみの嫁入り」に少し似ているような気がしますが、小さいオオカミが氷の上で転んだということから始まり、最後には人間が一番偉い(ヌブル=霊力がある)という落ちになっています。

## MEMO

## アイヌ文化の紹介

### アイヌの民具⑩ サラニャ(背負袋)

現在でも活用されている袋です。タラ(背負縄)にシナノキの皮で編んだ袋をつけたもの。袋の大きさにより5種類あり、最大のものは630リットルも入るものです。小さなものは完成後、火山灰を入れて立てておき、形を整えます。



『カムイユカと昔話』(小学館 萱野茂著)293ページより。

例文

ドカナカナー tukanakana	ドカナカナー (大きな体の私は)	ドカナカナー tukanakana	ドカナカナー tukanakana
チムーッカネ cimukkane		チヌカ ci=nukar	コロカ korka (だんだんと近づくと)
ドカナカナー tukanakana	ドカナカナー (海の表の隅々まで)	ドカナカナー tukanakana	ドカナカナー tukanakana
アドーイクルカ atuy kurka		ウトンナシコ utonna siko	(その斜視であった)
ドカナカナー tukanakana	ドカナカナー (強い光で照らしながら)	ドカナカナー tukanakana	ドカナカナー tukanakana
エマークラコッ emakrakot		チエコーパンカ ci=ekopankar	(それが嫌で私は)
ドカナカナー tukanakana	ドカナカナー (海の上を横切って)	ドカナカナー tukanakana	ドカナカナー tukanakana
アトイ atuy	トモードイエ tomotuye	オロワーノ orowano	スイ (しばらくの間飛んで行き) suy
ドカナカナー tukanakana	ドカナカナー (自分に似合う婿さんが)	ドカナカナー tukanakana	ドカナカナー tukanakana
チヤイコトムカ ci=yaykotomka	p	チムーッカネ cimukkane	(大きな身体で飛んで行った)
ドカナカナー tukanakana	ドカナカナー (海の表の隅々まで)	ドカナカナー tukanakana	ドカナカナー tukanakana
チフナラー ci=hunara	クス(いないものかと探しに行った) kusu	アドーイ atuy	クルカ kurka (海の表の隅々まで)
ドカナカナー tukanakana	ドカナカナー (強い光で照らしながら)	ドカナカナー tukanakana	ドカナカナー tukanakana
パイェアー paye=as	ア a	ワ(しばらくの間飛んで行くと) wa	エマークラコッ emakrakot (強い光で照らしながら)
ドカナカナー tukanakana	ドカナカナー (いい若者が目に入った)	< 次回へ続く >	
ピリカ pirka	オーっカイポ okkaypo		

『萱野茂のアイヌ神話集成3』カムイユカラ編 (1998年、ビクターエンタテインメント株式会社)36~41ページより  
1969年2月19日、鍋沢ねぶき さんより萱野茂が録音。

単語

アイヌ語	日本語訳	備考
チムーッカネ	まるのままである、無傷である	
エマークラコッ	強い光で照らす	
ヤイコトムカ	自分に似合うもの	
ウトンナ	斜視	
コパン	~を嫌う	

MEMO

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

アイヌ文化の紹介

アイヌの民具③ ファチャチセ (マツ葉葺きの小屋)

ファ(生もの=マツ)、チャ(柴)、チセ(家)。雪山で数人の連れがいる時に造る仮小屋です。まず火をたき、その火を囲むように棒を立て、前方だけ開いた形にして屋根の骨組を造り、それへマツの枝を立てかけて完成。天井まで1メートル50センチくらい。遠くから見ると、マツの枝の塊にしか見えません。ウウェペケレ(昔話)では大きなクマが歩いている様子を「ファチャチセ シルドペコロ(マツの枝の家が歩いているみたいだ)」と表現しています。



『カムイユカラと昔話』(小学館 萱野茂著)303ページより(一部修正)。







# Lesson 47 カムイユカ 大空に描いたコタン

## 例文

アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	アナナイネ an=an aune	(私はいたが)
アコロ a=kor	コタンポ kotanpo	(私の村が)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	タネ アナッネ tane anakne	(今になると)
アネシカールン an=esikarun	(懐かしく)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	ライ クーニ ッ ray kuni p	(死にそうに)
タンベ クース tanpe kusu	(そのために)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	アネ キ フーミ a=ne ki humi	(私はなつて)
ドイベ ソモ アーキ(二回食べること) tuipe somo a=ki	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	ウ ネ クーナッ u ne kunak	(いると思いながら)
ド スイ チェクニーッ (三回食べること) tu suy c=e-kuni-p	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	アラム キー コロ a=ramu ki kor	(ずっと私は)
レ スイ チェクニーッ (それらの食べ物を) re suy c=e-kuni-p	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	アナナイネ an=an ayne	(いたのであった)
ドカリケーヘ tukarikehe	(口にしようと)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	アコロ ユーピ a=kor yupi	(私の兄が)
アノテチャー ワ a=noteciwa wa	(私はせずに)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	ソユンパー ワ soyunpa wa	(外へ出て)

アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アフッ a=kor	クーニ kotanpo	(戻って来るのが)	カスノ イーサム kasuno isam
			(遅くなり)

< 次回へ続く >

『萱野茂のアイヌ神話集成1』カムイユカ編(1998年、ピクチャーエンタテインメント株式会社)44~54ページより。  
1961年10月29日、木村うしもんかさんより萱野茂が録音。

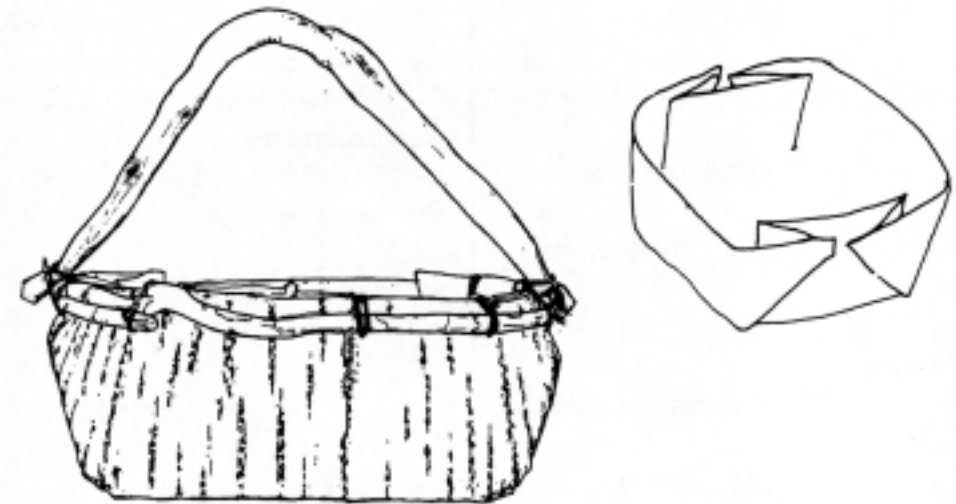
## 単語

アイヌ語	日本語訳	備考
コタンポ	かつての村	
エシカルン	懐かしむ、思い出す、会いたくなる	
ノテチャー	顎で押してやる	
ラム	思う、考える	
ソユンパ	外へ出る	ソユンの複数形

## アイヌ文化の紹介

### アイヌの民具③ ヤラニヤドシ (樹皮の手桶)

沢の水やわき水を家まで運ぶ道具です。初夏にサクラの木の皮をはぎ、60センチの正方形に切り取ります。対角線に筋を引き、四隅の三角形を外側に火であぶりながら折って楕円形にします。外側をツルで囲み、持ち手をつけて完成。



『カムイユカと昔話』(小学館 萱野茂著)322ページより(一部修正)。



# Lesson 49 カムイユカヲ 大空に描いたコタン

## 例文

アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	セコ <sub>ロ</sub> カイ ペ sekor okay pe	(そのように)
ソイエネアン ワ soyene=an wa	(私は外へ出て行き)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	アコ <sub>ロ</sub> ユーピ a=kor yupi	(私の兄が)
アコ <sub>ロ</sub> コタンポ a=kor kotanpo	(私たちの村を)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	エタイェ カーネ etaye kane	(言ってくれた)
ド ノカ オ <sub>ロ</sub> ケ tu noka orke	(二つの形を)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	キ ワ クース ki wa kusu	(そこで私は)
レ ノカ オ <sub>ロ</sub> ケ re noka orke	(三つの様子を)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	ソユンパーアン soyunpa=an	(外へ出ようと)
アヌィェ ワ a=nuye wa	(描いてから)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	イキヤナーイネ iki=an ayne	(どうにかこうにか)
アフンナン キー ナ ahun=an ki na	(入って来たのだ)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	レイェレイェアン reyereye=an	(このように)
ヘタッ ソイェンパ hetak soyenpa	(さあ外へ出て)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	シヌシヌーアン sinusinu=an	(いざるように)
インカ <sub>ヲ</sub> キー ヤン inkar ki yan	(見てきてくれ)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	ソイェンパアン ワ soyenpa=an wa	(外へ出てから)

アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
インカ <sub>ヲ</sub> アン ワ inkar=an wa	(やっとの思いで)	ネ ワ ネ チーキ ne wa ne ciki	(見てみると)

< 次回へ続く >

『萱野茂のアイヌ神話集成1』カムイユカヲ編 (1998年、ビクターエンタテインメント株式会社) 44~54ページより。  
1961年10月29日、木村うしもんか さんより萱野茂が録音。

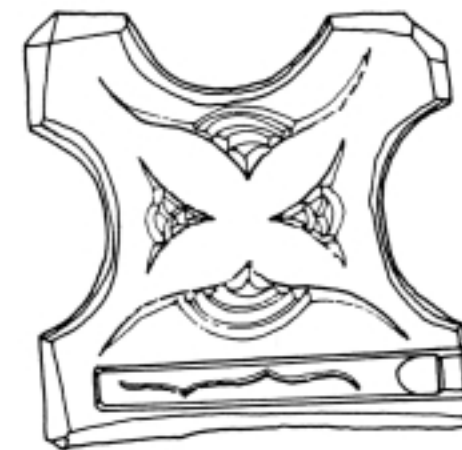
## 単語

アイヌ語	日本語訳	備考
ソイエネ	外に出る	
ヌィェ	描く、書く、記す	
アフン	入る	
オカイ	いる、ある、住む、暮す	
シヌシヌ	寄る、いざる、ずる	
ソイェンパ	外へ出る、(大勢の者が、皆が)外へ出て行った	
インカ <sub>ヲ</sub>	見る、見える	

## アイヌ文化の紹介

### アイヌの民具⑧ ケモヌイトサイェア (針入れつき糸巻き)

ネシコ(クルミ)の木の厚さ1センチくらいの板を作り、6~7センチ四方に切ります。縁にケモツという針を入れておく溝を彫り、引きぶたをつけます。糸を巻く部分は内側へ丸みをつけて削り、両面に彫刻をします。



『カムイユカヲと昔話』(小学館 萱野茂著)345ページより(一部修正)。

# Lesson 50 カムイユカラ 大空に描いたコタン

## 例文

アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	エネ オカー ヒ ene oka hi	(言うならば)
ニッコトッタ nis kotor ta	(雲の表面に)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	シシムーカ sisirmuka	(沙流川)
ソノノ ポーカ sonno poka	(本当に)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	アッパ ルー コ arpa ru ko	(その流れの)
アコ <sub>口</sub> コターヌ a=kor kotanu	(私たちの村が)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	マッナターラ maknatara	(清らかな様子)
アコ <sub>口</sub> モーシ a=kor mosir	(私たちの国土が)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	ケナッ ソ カー タ kenas so ka ta	(野原の所に)
ド ノカ オ <sub>口</sub> ケ tu noka orke	(二つの絵として)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	ノカン ユッ トーパ nokan yuk topa	(小ジカの群れや)
レ ノカ オ <sub>口</sub> ケ re noka orke	(三つの絵として)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	ルッネ ユッ トーパ rupne yuk topa	(大ジカの群れが)
アヌイェ キー ワ a=nuye ki wa	(描かれている)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	チッテケケレ citetterkere	(追いかっけい)
シラン カード siran katu	(その様子を)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	シシムーカ sisirmuka	(沙流川の)

アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	< 次回へ続く >
ペトンナイー タ pet onnay ta	(川の中には)	

『萱野茂のアイヌ神話集成1』カムイユカラ編(1998年、ピクチャーエンタテインメント株式会社)44~54ページより。  
1961年10月29日、木村うしもんか さんより萱野茂が録音。

## 単語

アイヌ語	日本語訳	備考
シシムーカ	沙流川の古い名前	
ル コ	~している様子は~である	
チッテケケレ	跳ね回る	
ペッ	川	
オンナイ	中、内部、屋内	
ノカン	小さい、細かい	

## MEMO

## アイヌ文化の紹介

### アイヌの民具⑦ カリャ(つる輪)

子どもの遊び道具です。つる輪を転がして横から棒で突き止めたり、宙に投げ上げて二股の棒で受け止めたりします。狩猟民族として、獲物を捕る訓練でもあったのです。ハッパンカ(ブドウづる)を曲げて作ります。直径30~40センチ。



『カムイユカラと昔話』(小学館 萱野茂著)351ページより(一部修正)。

# Lesson 51 カムイユカ ヲ 大空に描いたコタン

## 例文

アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	マレ ヲ ウコエタイーパ marep ukoetaypa	(回転話を奪い合い)
ノカン チェ ヲ nokan cep	ル ヲ (小さい魚や) rup	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	ペ ヲ ケナ ヲ カー タ pet kenas ka ta	(川原の方では)
ルプネ チェ ヲ rupne cep	ル ヲ (大きい魚が) rup	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	ルプネ ヲ ヲ トーパ rupne yuk topa	(大ジカの群れや)
チホユッパレ cihoyuppare	(ひしめき合い)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	ノカン ヲ ヲ トーパ nokan yuk topa	(小ジカの群れが)
カンナ チェ ヲ a=kor mosir	ル ヲ (水面の魚は) rup	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	チテッテケーレ citetterkere	(追いかかけ合い)
スク ヲ チーレ sukus cire	(天日で背が焦げ)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	ユ ヲ コイキ クーニ ヲ yuk koyki kuni p	(シカを獲る人)
ポ ヲ ナ チェ ヲ pokna cep	ル ヲ (水底の魚は) rup	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	オロ チパスース oro cipasusu	(走り回り)
スマ シール suma siru	(石で腹を擦り剥き)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	ドレ ヲ タ クーニ ヲ turep ta kuni p	(ウバユリを掘る人)
チェ コイキ クーニ ヲ cep koyki kuni p	(魚を獲る者)	アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ
アンナホーレホレホレ annahorehorehore	アンナホーレホレホレ	ノカン サラーニ nokan saranip	(小さい袋を)

アンナホーレホレホレ  
annahorehorehore

アンナホーレホレホレ

<次回へ続く>

ウコエマ ヲ  
ukoemakpa

(皆が嫌がり)

『萱野茂のアイヌ神話集成1』カムイユカヲ編(1998年、ピクチャーエンタテインメント株式会社)44~54ページより。  
1961年10月29日、木村うしもんかさんより萱野茂が録音。

## 単語

アイヌ語	日本語訳	備考
チホユッパレ	走り回る	
ウコエタイパ	互いに引っ張り合う	
チパスース	群れになって走り回る	
ウコエマ ヲ	互いに~を嫌って取らない	

## MEMO

## アイヌ文化の紹介

### アイヌの民具⑧ ヘペライ(花矢)

イヨマンテ(クマ送り)の時、クマに射る矢です。ニ風谷の矢は赤い布を埋めこみ、クマに刺さりませんが、旭川地方のは、頭部を少しとがらせ、軽く刺さります。頭部はラスパ(サビタ)、矢柄はシキ(オニガヤ)です。長さは60センチくらい。



『カムイユカヲと昔話』(小学館 萱野茂著)374ページより。

